2026 年 10 月 26 日　週刊住宅

「AI 活用で業務効率化　月 5530 時間削減も」

ビレッジハウス

ＡＩ活用で業務効率化　月５５３０時間削減も

ビレッジハウス・マネジメント（東京都港区）は、ＡＩ活用によって実現した社内の業務効率化の成果を発表した。

同社は今年1月からフェーズ1として、住まい探しの問い合わせ対応や内見予約にＡＩを導入。6月からはフェーズ2として、ＡＩ活用の幅を新規契約者の手続きまで拡大するとともに、入居中の各種申請手続きのオンライン化を推進した。

業務効率化効果を試算したところ、月間約５５３０時間の業務削減を実現。生産性向上によって、26年4月時点では70人で担っていた業務を10月時点では47人で同等の業務量とサービス水準を維持して遂行できる運営体制を構築した。

具体的な取り組みは、新規契約者は専用の入居申し込みフォームから24時間オンラインで手続きが可能。申し込み時にアップロードした書類情報はＡＩ（ＯＣＲ）が即時に読み取り、入力フォームへ自動で反映。書類内容の整合性確認や必要書類の判定をリアルタイムで実施する。内容に不備がある場合は、ＡＩが即時に検知し、警告や修正案内を行う。これによって、差し戻しや確認対応を大幅に削減した。

さらに、複数の提出書類の情報照合や本分確認もＡＩが自動で検証し、審査プロセスの精度向上と効率化を実現した。

申し込み情報はＡＩによって審査工程へと連携。結果通知や契約開始日確定を自動で行う。

契約後の鍵渡し手続きは専用フォーム上から希望日時を選択できる。

こうした取り組みで、入居までのリードタイムが従来の約10日から最大6日間短縮。契約から入居開始までの手続きをより円滑に進められるようになった。

今後は、ＡＩ活用を一層拡大し、最終的に月間約1万８９０時間の業務効率化を見込んでいる。

週刊住宅　２０２６年１０月２６日　００２面　０１版　Ｎｏ．０６
無断の転載、複写、配布を禁じます。

この記事は株式会社週刊住宅タイムズの転載許諾を受けています